

【二日目】 シンポジウム 「子どもの学びの本質を問う
～習得・活用・探究とは何か～」

コーディネーター 上智大学 教授 奈須正裕
シンポジスト 上智大学 名誉教授 加藤幸次
岐阜聖徳学園大学 教授 成田幸夫
愛知教育大学 准教授 久野弘幸
佐賀県大坪小学校 校長 光武充雄



『普通の学校をつくってほしい。』果たして普通とは何ぞや…2日目のシンポジウムは各講師より分科会での報告及び提案協議がされた。今回は関西個性化教育学会の会長になられた辻村哲夫先生から、総合的な学習の導入に関しどんな思いで政策を展開されたのか、「より総合的な学習の能力を活用しなければ、O E C Dのような問題は解いていけない」等貴重なお話をいただいた。

久野先生からは「体験の後ろに必ずある【実感】、言葉の後ろに必ずある【思考】。それが持っている意味や価値をもう1度考えていく必要がある。」子供が本当にどう思っているのか、教師は子供にうーんと手を差し出してその子の思いを出せるだけつかもうとしていきたいと指導された。



成田先生からは、近頃衰退の一途をたどっている【一人学び】の復権を強く訴えられた。《・子供に学び方を本気で育てようとする・子供なりの考え方を大切にする教室を作っていくという原点にもう一度返って考えていく必要がある。》【今何故個別化・個性化なのか。教師自身の問い返しが問われている。】子供達の事例を出されながら、熱く語られた。

光武先生からは「発達障害」の子供のこのあたりの中から学びの教材作りをすること・学校全体の組織的な展開を組むこと・自分と学びの関わりつながり意識していかせるためにも、是非ウェービングの手法を利用して概念マップを作してほしい。と示唆された。

加藤先生からは「オープンスペースは手段にすぎない」事、すでに大正期からあった【自己啓発教育】について話された。・集団が充実するには、個が充実しなければ不可能である。・「今改めて個の何に必ずやるか考える必要がある」と示唆された。

話はその後「普通の教室・学習とは何を指すのか・本当に子供の必要感から学びが発生、成立しているのか・単に無理強いさせて椅子にすわらせているだけなのか等(奈須先生)」本音の議論が白熱し、立ち見まででていた参加者からも意見が交わされた。自分自身も活力がなくなる度にこの録音テープを聞き返したいシンポジウムであった。学会になって第1回目の佐賀大会は酷暑の外よりも熱気のある全国大会となった。

(文責 加藤)



〈事務局への問い合わせ・連絡先〉
庶務部長 佐久間 茂和
〒114-0003 東京都北区豊島 8-27
フレーシエル王子神谷 2-914
tel03-3912-2797
e-mail sakuma.s@s7.dion.ne.jp
日本個性化教育学会ホームページ
http://zenkoren.com/

日本個性化教育学会 第5号
平成20年9月14日発行
編集責任者 事務局長 奈須 正裕
編集 広報部 中田 泰志

日本個性化教育学会

日本個性化教育学会報

第5号

発行
平成20年9月14日
発行責任者
加藤 幸次

全国個性化教育連盟から日本個性化教育学会へ。新しい歴史を記す第一歩となる「日本個性化教育学会 第1回 全国大会」が、九州は佐賀で開催されました。折しも、本年は新しい学習指導要領が告示され、周知の年。来るべき新教育課程に向けて個性化教育のあり方はどうすべきかを考える好機になりました。

日程

【一日目】2008.8/9(土)

9:20 開会行事 九州個性化教育研究会 会長 前崎敏雄
日本個性化教育学会 会長 加藤幸次
9:35 基調講演 「総合的な学習の学びを考える」 兵庫教育大学大学院 教授 佐藤 真
10:45 講演 「習得・活用・探究を考える」 明星大学 教授 高浦勝義
13:00 分科会

分科会 1
「総合的な学習の学びを問う」
実践 1 福岡県堅粕小学校
教諭 肝付 幸枝
実践 2 佐賀県武雄小学校
教諭 山口 環
実践 3 愛知県緒川小学校
教諭 青木 俊
教諭 原 伊津子
指導助言
愛知教育大学
准教授 久野 弘幸

分科会 2
「教科の学びを問う」
実践 1 愛知県石浜西小学校
教諭 竹内 淑子
実践 2 山梨県
中北教育事務所
指導主事 内藤 和久
指導助言
岐阜聖徳大学
教授 成田 幸夫

分科会 3
「普通学級における発達障害の学びを問う」
実践 1 佐賀県鹿島小学校
教諭 下村真由美
教諭 角田 恵子
実践 2 佐賀県大坪小学校
教諭 犬山 泰子
指導助言
佐賀県大坪小学校
校長 光武 充雄

16:15 会務総会

懇親会「四季のそら」18:30～20:30

【二日目】2008.8/10(日)

9:00 シンポジウム 「子どもの学びの本質を問う ～習得・活用・探究とは何か～」

コーディネーター 上智大学 教授 奈須正裕
シンポジスト 上智大学 名誉教授 加藤幸次
岐阜聖徳学園大学 教授 成田幸夫
愛知教育大学 准教授 久野弘幸
佐賀県大坪小学校 校長 光武充雄

12:05 閉会行事

佐賀県 武雄市立朝日小学校 校長 松本 真

【一日目】

基調講演 総合的な学習の学びを考える

兵庫教育大学大学院教授 佐藤 真

新学習指導要領をふまえ、今後の総合的な学習の時間について教えていただいた。改善点としては、ねらいがより明確化され、目標とされたこと、育てたい力の視点が例示されたことをあげられた。



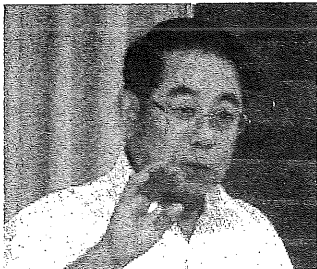
次に、新学習指導要領での目標の特色として「探究的な学習」や「協同的な態度を育てる」ことが示されたことをあげられ、その効果的な指導について話された。

また、総合的な学習の時間において重要な３つの評価として、児童・生徒の学習状況に関する評価、教師の学習指導に関する評価、各学校の指導計画に関する評価という「子ども・教師・カリキュラム」の評価についても詳しく話していただいた。

最後の「真・善・美の教育」の話も興味深く、密度の濃い充実した時間だった。（文責 五十子）

講演 「習得・活用・探究を考える」

明星大学 教授 高浦 勝義



高浦先生からは今回出された『学習指導要領の改訂について（答申）』の意義や特質、課題について討論いただいた。討論の中心は「習得」「活用」「探求」は内容重視か方法重視かという点におかれた。今回の答申では「習得・活用」とは教科の指導で考え、他方の「探求」は総合的な学習の時間の指導で考えていこうというように、両者の違いがいわば内容中心に取り上げられている。この点に問題提議をされた。①基礎基本は誰がきめるのか、勉強する前から、知識一活用応用と分けるのはおかしい。②さらに「学力」も知識の獲得量だけでなく「関心・意欲・態度」をもっと教育目標として、取り上げていかないとけない。③J. デューイのいう「探求」は、「段階」（問題の場面他）と「操作」（観察推理）と「態度」（責任他）の三位一体の構造にて成立している思考である。④より一層「個に応じた指導」へ着目し、「何かがちがう」という頭のズレから、仮説し検証していくという子供の体中心の問題解決活動を重視すべし、と力強く述べられた。（文責 加藤）

分科会 1 「総合的な学習の学びを問う」

実践 1 福岡県堅粕小学校 教諭 肝付 幸枝 実践 2 佐賀県武雄小学校 教諭 山口 環

実践 3 愛知県緒川小学校 教諭 青木 俊 教諭 原 伊津子

指導助言 愛知教育大学 准教授 久野 弘幸



1. 博多山笠との関わりを通して

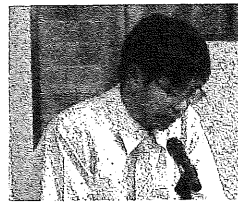
「地域の人々の暖かい協力があってこそ山笠が長い間受け継がれてきたのだと思います。下級生、後輩にもっといい山笠にしてもらいと思っています。」堅粕小の肝付先生から博多山笠との関わりを通じた学習が発表された。遠目に「大変そう」と見ていた子供等が地域の「ごりょうさん他」に祭りの意義・何故料理を作るのか等を教わり、実際に３００食の料理まで作ってしまう。ワークシートをもとに振り返り、計画を立て直し、創っていく。自分の変化に気付かせる。大がかりな学習の根底にはいていねいな子供への見とりが貫かれていた。地域で生きている実感を子供達は持ったようだ。

2. 楼門朝市 2000人プロジェクト

武雄小の山口先生からは実際に町の朝市に子供達が参加していった学習を発表していただいた。『私はこのプロジェクトで野菜を育てるたいへんさ（食育）と商売のたいへんさ（地域との関わり・実感）がわかりました。そしてニュースを作ったり提案書を作ったりして（ワークシート・テーマ目標設定・課題設定のためのウェービング作り・計画検討会議・企画書作りそして戦略会議一問題解決）やっぱりチームとの協力は必要だなあ（共同学習）と思いました。（質の良い経験）最初はさわるのが気持ち悪いと思っていた生ゴミはすごい・宝だ（体験のうしろにある実感）』この学習の内容の濃さは単なる行事参加ではなく、「自ら考え解決する力を育てる」という柱に貫かれており、ワークシートがうまく活用されている点にあった。この子供達の地域への関わりは明らかに変わっただろうし、自分たちで戦略会議をして問題解決の力がついていると思われる。

3. 地域の人、様々な人々との「生きる」

緒川小からは青木先生・原先生から「子供の願い」に基づいた「生きる」の発表をしていただいた。「古いおもちゃしかおいていないお店はなくてもいいと思う。」子供の素直な発言を受け止めるところから学習が発射していく。２年生がみんなで町探検をしてから、町のすごい人 のお店を手伝い、



弟子にしてもらいながら関わりを持つことで、自分の町の良さを認識していく。これは６年生になって「外国の人との交流「国際人になろう」」につながっている。『わたしはみんなが「いけぜん」にいきたいと思ってもらえるようにちらしを作りたい。とにかくおぼさんが何をどう思っているのか聞かないとわからない。おぼさんに聞いて解決してがんばりたいです。子供たちの実生活に根ざした「生きる」を主題に緒川小は実践力を育んでいる。

久野先生からは必ず体験のうしろには**実感**があり、（ことばに表せないつぶやきも忘れずに）言葉のうしろにある**思考**とどう結び合っていくのか。質の良い経験の発表について紐解かれていった。２０分ではあまりに短く内容も濃かったためか、だいぶ突っ込んだ質問（子供の振り返りの内容他）が多く出され、時間を超えての討議が展開された。（文責 加藤）



分科会 2 「教科の学びを問う」

実践 1 愛知県石浜西小学校 教諭 竹内 淑子

実践 2 山梨県 中北教育事務所 指導主事 内藤 和久

指導助言 岐阜聖徳大学 教授 成田 幸夫



竹内先生の発表は、日伯交流１００年の交流式典に招待された石浜西小学校の子どもたちの様子を紹介するブラジルのテレビ番組から始まりました。外国人児童が３分の１、一人親世帯が３分の１という学校との衝撃的な出会いから、とにかく学校に来させる苦労話を淡々と語られました。学力不振、学習意欲の不足した子どもたちに対して、音読から始め、習熟度学習、にこにこデー、サタデーナイトスクール、〇〇学習（２教科同時進行単元内自由進度学習）等々次々に繰り上げられる学習展開は、圧巻でした。



内藤先生の信玄堤で算数をしようは、加藤幸次先生から伺ったアメリカの小学校での学校の中や周りから抜き出したきた算数教材のお話をヒントに考え出したものだそうです。指導助言の成田幸夫先生から、教科書から離れた、学習課題を生活単元風にいかに組み直すかという点では評価できるというお話がありました。

成田先生から「釣った魚を与えるより、釣り方を教える」というお話はとても印象に残りました。（文責 館岡）

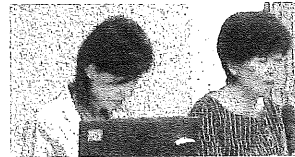


分科会 3 「普通学級における発達障害の学びを問う」

実践 1 佐賀県鹿島小学校 教諭 下村真由美 教諭 角田 恵子

実践 2 佐賀県大坪小学校 教諭 犬山 泰子

指導助言 佐賀県大坪小学校 校長 光武 充雄



「その子供一人ひとりの発達の遅れを、アンバランスと理解し、個人差ととらえる事。その子のこだわりに応じて興味関心の中心を教材化する。そしてその子独自の単元を創造すること。」講師の光武先生はやさしい面持ちながらも、メガネの奥から眼孔鋭く何度も力強く指導されていた。今回の第３分科会での発表はこの精神を根底に、地道でいていねい・根気のある



発表がされ、早速我が校でも資料を担当者と読み研修した。①鹿島小のＡ君のこだわり「きのこ・ムシキング等」彼独自の言葉「リセット・NG・クリア等」に対応した教材で学び変容していく姿。自分の発表を聞いて喜ぶと同時に友達に反応を求め関わっていかうとする姿。②大坪小のＡ児Ｂ児ががんばりカードをもとに周囲の子に評価を求め他の子がほめてくれることによる、相手意識・自己肯定感を持つ姿。その子らのもてる力に対応して作られる教材・単元構成等々…発表をただ聞いている

と、スムーズにいったように聞こえてしまうそこまでの経過と日々の試行錯誤、子供を見取る力に感動した参加者からは、多くの質問・相談・経験談が交わされ、暖かくも内容の濃い研修となった。（文責 加藤）

